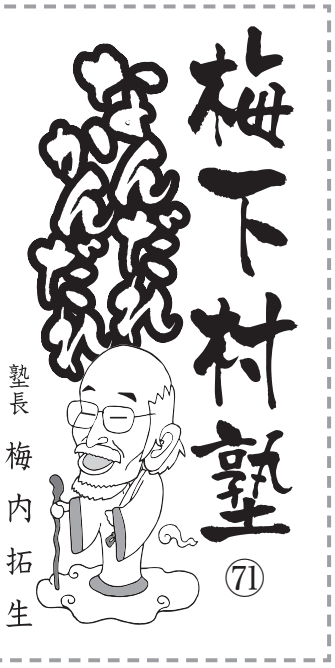
「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



東日本大震災から学ぶもの(7)

（風化と対応する心）

東日本大震災から2年が過ぎ去ろうとしている。日夜、復興への営みが続いており、同時に震災の痛みや関心が風化し始めている。もちろん、これは個人によって度合いはいろいろ異なっている。

2月6日から連載が始まった、「つなぐ～阪神淡路大震災から18年～結び、伝える教訓と縁」には大震災後の阪神淡路の人々の復興の現状、困難、複雑な心情が述べられている。

2月13日の第1面の「結び、伝える教訓と縁⑥次世代へ何を残すのか　震災に学び、継承する責務Ⅰ」と14日「結び、伝える教訓と縁⑦風化とギャップに悩む　震災に学び、継承する責務Ⅱ」、これらの報道は2年前に東日本大震災を経験した人々に、いろいろな響きと意味を投げかけている。

災害を忘れること、それが風化することは当たり前のことである。忘れることは、生きるための知恵でもある。しかし、忘れてはいけないものもある。昭和35年（1960年）の三陸を襲ったチリ大津波の経験をした人にさえも、警戒に対する心は薄れていたものがあったと思う。ましてや、その後に生まれた世代には三陸津波の経験がないので、それを伝えることは困難な面もある。災害避難の訓練と適切な避難行動は極めて大切である。

今回の東日本大震災の時に、災害に対する警戒心の風化のために、適切な避難行動を取れずに多くの子供たちの命を失った学校もある。

平成7年1月17日早朝、東京で経験した、阪神淡路大震災の記憶は鮮明に残っている。

卒業論文の仕上げのために、大学院生たちと東京大学の研究室で仕事をしていたのである。あのときの地震の大きな揺れは忘れることが出来ない。それを一緒に経験した東京大学大学院の卒業生達が「森と水と命の惑星」国際会議を手伝ってくれたのである。

卒業生たちは、その時の経験を風化させずに、阪神淡路の災害へのボランティア活動、国内の大学、研究機関、JAICA、国外のWHOや国際NPOなどを通して、災害対策への活動を続けている。

東日本大震災への国内外からの支援は続いている、これらの活動には災害への対応の風化を念頭に入れているものもあり、肝に命ずべきものもある。これら風化の予防を念頭に入れた外部からの支援活動にどのように対応すべきかを、地元は真剣に考える時が来ていると思う。

（古典に学ぶ）

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にはあらず…」、この鴨長明の「方丈記」には震災国日本に住む我々にとって、学ぶべき心構えが記述されている。現代は建築技術の発達により、耐震構造の建物が普及している。しかし。地球の地殻運動が引き起こす地震や、地球外からの隕石の飛来と衝突は避けようがない。

シベリアの氷雪原に落下した隕石のニュースは未だ記憶に新しい。「方丈記」は、地震国日本では、庵を結んで暮らすのがよいと勧めているのである。いわば、持ち運びが簡単な家に住むのがよいといっているのである。

モンゴルの草原の人々は、パオという移動式のテントの生活をしている。草原を馬に乗って走って暮らしている、この文化が、12世紀前後にモンゴル大帝国を築いたのである。自然環境に調和した暮らしが大切なのである。歴史上の文明の興亡の原因のひとつは、自然環境との調和を忘れたことであるとも考えられている。「方丈記」は地震国である日本への生活の一つの知恵を伝えている。

吉田兼好の「走然草」の木のぼりの名人の話しは、弟子が木のぼりから降りてきて、地上近くになった時になって、気をつけておりよと注意した話しである。夏目漱石の門下で、物理学者の寺田寅彦博士が述べた「災害は忘れたころに起きる」という言葉に通じている。これらは災害や危険への意識の風化への戒めである。（風化と対応する心）への戒めと教育は昔も今も同じである。

（民主主義とルール）

2020年のオリンピック競技からレスリングが外される危険性が報道され、国内外で大きな関心を呼び起こしている。2020年オリンピックは東京都もその誘致に努力している最中である。

オリンピックを始めとする国際スポーツはルールの設定が、自国に有利になるか不利になるかが大いに関係してくる。このためには、常日頃からの情報収集、分析、論理の構築が大切であることはいうまでもない。

最後は、これらを有効に働かせるための外交交渉である。これが、（民主主義とルール）であり、これは欧米が中心となって進めてきている文化であるが、世界の現実でもある。即ち、オリンピックを始め、政治、経済、文化、においてもルールの設定が大きな役割を果たしているのである。

日本は「言挙げ」しないことが美徳と言う伝統があるが、オリンピック柔道を始めとするスポーツ競技のコーチと暴力問題が関心を呼んでおり、これらも自由な発言と決定のルールを明らかにすること（民主主義とルール）が大切であるということと関係してくる。東日本大震災を経験し、復興に真剣に取り組んでいる気仙からの（民主主義とルール）への発信が期待される。